

日本ブロンテ協会関西支部
2018年大会プログラム

場 所：神戸市看護大学 教育棟 西館 W13教室
(〒651-2013 神戸市西区学園西町3丁目4番地
市営地下鉄西神・山手線「学園都市駅」下車 徒歩約10分)

日 時：2018年3月22日(木)13:30~19:30

司 会：宮川 和子(神戸大学講師)

開会の辞：服部 慶子(日本ブロンテ協会関西支部支部長・大阪大谷大学教授)

会長挨拶：白井 義昭(横浜市立大学名誉教授)

会場校挨拶：鈴木 志津枝(神戸市看護大学学長)

研究発表：(13:45~14:45)

植えつけられるキャサリン、移植する第二世代——植物を通して『嵐が丘』を読む
井寺 利奈(京都大学大学院博士後期課程)

『嵐が丘』家系図のミッシング・リング

良田 玲子(日本ブロンテ協会会員)

シンポジウム：(15:00~16:30) テーマ「歴史のなかのブロンテ」

「ブロンテ姉妹と文学的想像力」

(司会) 奥村 真紀(京都教育大学准教授)

「シャーロット・ブロンテの小説における ‘passion’ 再考」

皆本 智美(摂南大学准教授)

「『ワイルドフェル・ホールの住人』と『ジェイン・エア』に見る法律による妻の保護
の欠如」

石井 昌子(京都大学講師)

「シャーロット・ブロンテと教育」

杉村 寛子(大阪電気通信大学教授)

談 話 会：(16:40~17:00)

総 会：(17:10~17:20)

閉会の辞：内田 能嗣(日本ブロンテ協会顧問・帝塚山学院大学名誉教授)

懇親会：(17:30~19:30)

場所：神戸市看護大学 学生会館1階 学生食堂

会 費：5,000円

日本ブロンテ協会関西支部事務局

〒530-0055 大阪市北区野崎町1-25 新大和ビル3F 大阪教育図書株式会社内

TEL: 06-6361-5936(代) bronte.kansai@gmail.com

研究発表

1. 植えつけられるキャサリン、移植する第二世代——植物を通して『嵐が丘』を読む

井寺 利奈（京都大学大学院博士後期課程）

『嵐が丘』の冒頭部においてロックウッドが見る夢の中で、屋敷の横に植えられたモミの木がキャサリンの亡霊に変容していることは重要な意味を持つ。家に入ることができないと嘆くキャサリンの亡霊は、生前いわば「植え付けられた状態」であったと言えるからだ。またキャサリンの告白をきっかけにヒースクリフとキャサリンが離別する場面で、激しい嵐によって引き裂かれる木は、一心同体の状態であった二人の分裂を具現化している。このように作中のいたるところに何気なく描かれる、モミの木をはじめとする植物は、物語のプロットや登場人物らの状態を表象している。本発表では、植物に着目して『嵐が丘』を読むことで、第一世代のキャサリンを中心とした物語の新たな側面、そして第二世代の役割について考察したい。

2. 『嵐が丘』 家系図のミッシング・リング

良田 玲子（日本ブロンテ協会会員）

C. P. Sangerが『嵐が丘』のアンショウ家とリントン家の家系図の「左右対称」を指摘して以来、この作品はエミリー・ブロンテによる歴史・地理・経済・法律に意識的計画的な執筆とされている。ところが作品を注意深く読むと、二つの家系図の失われた相違点に気づく。それはアンショウ家の早世した男子ヒースクリフである。彼が生存していればヒンドリーは相続人にならず、リバプールで拾われた子供がそれを名乗ることもなかった。にもかかわらず、このヒースクリフ一世は無視されてきた。『ブロンテと19世紀イギリス』中の惣谷論文「『嵐が丘』探訪—「荒野」はどこにあるのか—」によると、デビッド・セシルやマーガレット・ホームズは作品中で語られないものにこそ注目している。“エミリは自然への敬意から、直接的に描写することは避けた”からだ。ではヒースクリフの名に対する敬意とは何か、エミリは何を避けたのであろうか？